

故男爵穂積陳重博士一週年追悼式

中央大學創立者の一員たる故男爵穂積博士逝いて既に一年中央大學に於ては去る五月十五日教職員、大學評議員、學員及學生相寄りて穂積家遺族竝に親族の方々を招きて午後一時より追悼式及び追悼演說會を開催したり式場には神式に依り祭壇を設け正面の壇上には故博士の遺影を安置す定刻來會者の着席するや馬場學長は徐ろに靈前に進み出で左の追悼文を朗讀せられたり

我が中央大學の前身英吉利法律學校の創立者たる穂積先生世を厭ふの後春風秋雨早く既に一年を過ぎ温容髣髴として目睫に存し哀愁尙ほ胸臆に新なり惟ふに先生は本邦學界の先覺儒林の耆宿育英以て文運を啓き立法以て治道を資け勳績赫々として人の耳目に輝き聖明之を録し舉世之を仰ぐ凡そ方今法律を論じ權義を口にする者親しく講筵に待したると否とを問はず一として先生の教を奉ぜざるはなく今日本邦の法學隆昌を致したるもの先生に負ふこと其幾何なるを知らず先生晚年樞密院議長の重寄を拜し尙ほ致致として講學に睨め畢生の蘊蓄を傾けて法律進化の

一六二

理法を集成し刊行の業未だ央ならずして俄に白玉樓中の人と爲る國家の不幸學界の損失豈に之に過ぐるものあらむや余儕後生永く先生に依り益を請はんことを期し本學亦先生の援護指導に待つもの甚だ少からずと雖も今や幽明境を異にし百事悉く廢す哀哉茲に同人相集り先生の一週年追悼會を催し清酌庶羞を以て英魂を弔ふ在天の神靈庶幾くば來り響けよ

中央大學學長法學博士 馬場 愿 治

次で教授代表者として三浦義道氏は左の如く

穂積先生薨去せられて既に一年花さく春は來れるも先生の英靈は長へに歸りまさず自然の姿の變るなきに何ぞ人世の姿のかくも無情なるや今先生の尊影を拜しつゝ謹で追悼の赤誠を先生の靈前に捧ぐ大凡學者の本分は能く讀で明にするに在り能く著して世を益するに在り能く教へて導くに在り而れども先生の如く深く廣く一生涯を一貫して能く讀まれ能く著され能く教へられたる學者は未だ嘗てあらざるなり先生の文勳實に宇内に冠たりと謂ふべし此絶大なる先生の精力を一貫して流るゝ先生の學風本領竝に精神は先生の遺されたる幾多の名著の中に燦然として不朽の光彩を放てり先生の絶筆とも稱すべき實名敬避俗研究の冒頭に於て先生はベーコンの所謂疑ふに

勇にして斷するに怯而も反省に吝ならざれ」との句をあげ之れ實に學者の本領なりと記されたりまた法窓夜話にも「自疑反省」なる字句を記され學者が軽々しく旨斷することなきを戒められたりまた法律進化論序文に於ても先生は曰く「著者は本書の立案につきて極めて慎重ならんことを期したるも淺識寡聞なるがために或は其斷案若くば舉證に幾多の誤謬あらんことを恐る庶幾くば讀者の嚴正なる叱教を俟て虚心反省する所あらん若し老後に之を訂正して讀者に公謝するの機を得る能はざることありとするも著者は尙且つ朝聞夕死を樂しまんとするものなり」と説かれたりまた法窓夜話に於てローマの法律家バピニアヌスが死を以て法律家の名を辱かしめざりし美談を讚歎せられ士の最も重んずべきは節義學者は士中の士なりと申されたり先生の眞意正に學者は宜しく其本領をバピニアヌスの如く死を以て守るべきことを教へられたるものなり先生が學問の研究に如何に嚴肅なりしか死を以て眞理を求めんとする高風は此等の章節の中に籠り先生の眞摯なる面目躍如として吾等後進の胸に迫る

伏して惟るに先生が如何に學問の研究に忠實にして輕々しく信ぜず輕々しく斷ぜずまた己を空ふして

雜報

他人の説に耳を傾け自説に誤ありと知らば之を改むるに敏なるべしと申されたことは是れ先生の尊ぶべき學風にして所謂疑ふに勇斷するに怯反省するに吝ならざれの一句に盡く而して玲瓏玉の如き先生の虚心坦懐の心事是れ先生の本領此本領をバピニアヌスの意氣の如く死を以て學に殉ぜんとする節義是れ先生の精神なり此學風此本領此精神は先生の絶大の精力の結晶なる幾多の名著の中に燦然たる不朽の光を放つなり

嗚呼先生天資聰明精力絶倫而して先生教へて曰く疑ふに勇斷するに怯反省するに吝ならざれと此高邁の識見此坦懐の心事此殉學の精神あゝ先生は我法學界の一大偉人といはんよりは寧ろ一大聖人なりといふべし先生の如く玲瓏一點の曇りをも見ざる崇高明聖なる大學者はあらざるなりあゝ先生は法學の大聖にして古今東西に其匹を見ざるなり

法學の大聖逝きて後進の學徒茫洋恰も慈父を失ひたるが如し仰て先生の學風を慕ひ伏して先生の本領精神を偲ぶ哀悼綿々として盡きず茲に謹而英靈を慰め奉る

教授總代 法學博士 三浦 義道

次に學員會代表西川一男氏は左の如く

維時昭和二年五月十五日中央大學學員會は謹みて故男爵穗積先生の靈に奠す嗚呼先生は法學の泰斗にして學東西を兼ね徳一世に高し志學に篤く我法學は先生に依て起り先生に依て進歩發達し我國各種の法典は大小に拘らず先生に倚て成らざるはなく法學に志す者直接間接に先生の教に浴せざるもの殆ど稀なり先生夙に大著名著を公にして世上に布き學界を裨益し法制上に寄與する所尠からず實に先生の功業は萬代不朽我が法學界の明星として無窮に其の光を仰ぎ瞻るべきなり

夫れ先生の志は學に在り學は先生の生命にして學と終始せられたりと雖先生の學徳材幹は獨り専ら學窓にのみ親むを許さず擢られて樞密顧問官に親任せられ次で樞密院議長に進み至尊の諮詢に應へ聖聰啓沃の大任に當らせ給ふ先生の忠誠なる克く此の重荷に耐へ眞に股肱の臣と謂べし

先生は同志と俱に我中央大學を創立し法學の教養普及に務め諸般の經營に參畫せらるる等具に本學の爲に心力を傾けられ本學の今日在る先生の賜にして洵に本學の柱石たり

先生は我中央大學々員會の耆宿にして常に本會を督勵提撕し給ひ會員の結合因て堅く會運益々隆なり

學員の先生を慕ふこと慈父の如し

嗚呼世事多端にして國家は固より我中央大學及學員會に至る迄先生の學徳材幹に嫉つもの彌々多きを加ふるに際り一朝病を得て溘焉として易寶せらるる何ぞ痛惜悲哀の情に堪へんや先生館を捨させ給ひてより爰に一周年本日盛大なる追悼式に蒞み恪みて神位を拜す慈顔温容髣髴として目前に在すが如し萬感交々臻り追懷禁ずる能はず聊か蕪辭を列ね學員一同に代り恭しく哀悼の忱を致す在天の英靈尙くば饗けよ

中央大學々員會理事長 西川 一男

斯くて馬場學長、遺族及親族、教授代表者三浦義道氏、學員會代表者西川一男氏及學生代表者堀江要平氏の順序にて玉串を捧げ了つて一同起立禮拜す次で男爵穗積重遠博士の懇篤なる挨拶あり

以上を以て式を終り直に追悼演說會に移る先づ馬場學長の挨拶あり續いて美濃部達吉、松波仁一郎、元田肇、花井卓藏の諸氏交々起つて故人の學徳を讚美し故人生前の面目髣髴として目睫に迫るものあり吾人は追て其速記を本誌に掲載すべし

當日の出席者は來賓たる穗積歌子未亡人、穗積重遠博士、同令夫人、穗積律之助、同令夫人、穗積重威の諸氏の外馬場學長を始め中央大學理事監事、大學評議員、

教職員及學員、學生等頗る多數に達したり